

公益財団法人 東京子ども図書館

ごあんない



東京子ども図書館は、1950年代から60年代にかけて、東京都内4ヵ所ではじめられた家庭文庫が母体となって生まれた私立の図書館です。子どもたちへの直接サービスのほかに、“子どもと本の世界で働くおとな”のために、資料室の運営、出版、講演・講座の開催、人材育成など、さまざまな活動を行っています。

開館日	児童室	火・水・金曜日	13:00～17:00
		土曜日	10:30～17:00
	資料室	火・水・金曜日	10:00～17:00
		土曜日	10:00～19:00
	事務室	火～土曜日	10:00～17:00
休館日	日・月・祝日（児童室・資料室は木曜日休館） 年末年始、夏期特別整理期間		

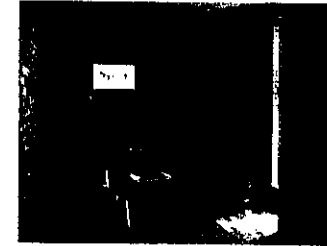
あゆみ

- 1955 昭 30…土屋児童文庫はじまる（土屋滋子主宰・世田谷区）
- 1956 昭 31…入船町土屋児童文庫はじまる（土屋滋子主宰・中央区）
- 1958 昭 33…かつら文庫はじまる（石井桃子主宰・杉並区）
- 1967 昭 42…松の実文庫はじまる（松岡享子主宰・中野区）
- 1971 昭 46…東京子ども図書館設立準備委員会発足
- 1974 昭 49…東京都教育委員会より財団法人設立の認可を受ける
- 1997 平 9…中野区江原町に新館完成、移転
- 2010 平 22…内閣総理大臣より認定され公益財団法人となる

児童室

絵本、物語、昔話、詩、ノンフィクションなど、蔵書は約8,000冊。小規模な図書館ならではの親しみやすい雰囲気と、ひとりひとりの子どもへのきめこまやかなサービスを心がけています。

毎週水曜日と第2・4土曜日には「おはなしのじかん」、第1・3土曜日には「わらべうたの会」があります。



資料室

内外の児童図書や、児童文学関係の研究書など約18,200冊を備えた、研究資料室です。

カーネギー賞、ニューベリー賞など、海外の児童図書賞受賞作品（原書）のコレクションがあります。また、語り手のために、日本と世界の昔話集をそろえています。館外貸出、読書相談やレファレンスサービスも行っています。



- ・貸出のための利用者登録料
(対象18歳以上)
- 一般 1,000円(年間)
- 賛助会員 無料

講演・講座・お話し

お話し講習会

お話しとは、昔話などの物語を、語り手がすっかり覚えて自分のものとし、本を見ないで語るものです。当館の講習会は、子どもに語ることを基本に据え、お話しを選びかた、語りかた、語り手としての心構えなどを学びます。設立当初からはじまった2年間の講習会のほか、短期講習会も行っています。

おとなのためのお話し

ふだん子どもたちに行っているお話しを、おとなの方に聞いていただく会です。月例お話しのと年4回の昼のお話しがあります。

子どもの図書館講座

子どものための図書館サービスに関するさまざまなテーマについて、ともに考える連続講座です。

講師派遣

読み聞かせ、お話し、ブックトークなどに関する講演・講座に講師を派遣しています。

*このほか、外部講師による、子どもと本に関わるテーマの講演会なども随時行っています。

見学

ご要望に応じて館内をご案内します。グループでの見学は前もってご連絡ください。小さなお話し（有料）を開くこともできます。

施設利用

ホールや「おはなしのへや」等を、子どもと本、お話しに関する勉強会や催しに、ご利用いただけます。（要予約・有料）

人材育成

石井桃子奨学研修助成

当館名誉理事であった石井桃子さんより寄贈された基金をもとに、1995年に発足しました。子どもと本に関わる仕事をしている方、それを志している方の勉学と研修のための助成です。

研修生制度

将来、児童図書館・学校図書館などで働くことを目指す若い人が、1年間当館で働きながら、子どもの本と図書館活動について、基礎的な知識や技能を身につける制度です。

児童図書館員のための研修プログラム

研修生の研修の一部に参加するプログラムです。児童サービスの基本を学ぶこと、基本的な本を読むことに重点を置いています。

実習生

図書館・情報学を専攻、または司書課程を履修する学生を、大学からの要請により、実習生として受け入れています。

出版活動

当館の活動と、その成果を、いち早くお知らせする機関誌「こどもとしよかん」（季刊）のほか、子どもの本のブックリストや、手のひらサイズのお話し集「おはなしのろうそく」、松岡享子によるお話し入門書や、講演を収録した「レクチャーボックス」シリーズもあります。くわしくは別刷の「出版あんない」をごらんください。